

2025年7月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)



2025年6月13日

上場会社名 株式会社クラシコム 上場取引所 東
 コード番号 7110 URL https://kurashi.com/
 代表者(役職名) 代表取締役社長 (氏名) 青木 耕平
 問合せ先責任者(役職名) 取締役CFO (氏名) 山口 揚平 (TEL) 042-577-0486
 配当支払開始予定日 —
 決算補足説明資料作成の有無 : 有
 決算説明会開催の有無 : 有 (機関投資家・アナリスト・個人投資家向け)

(百万円未満切捨て)

1. 2025年7月期第3四半期の連結業績(2024年8月1日~2025年4月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		EBITDA		営業利益		経常利益		親会社株主に 帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2025年7月期第3四半期	6,485	20.1	925	△11.3	871	△12.7	886	△16.4	569	△17.8
2024年7月期第3四半期	5,398	—	1,043	—	998	—	1,061	—	692	—

(注) 包括利益 2025年7月期第3四半期 569百万円(△17.8%) 2024年7月期第3四半期 692百万円(—%)

	1株当たり 四半期純利益		潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益	
	円	銭	円	銭
2025年7月期第3四半期	77	23	—	—
2024年7月期第3四半期	93	91	—	—

(注) 1. 当社は、2024年7月期第1四半期より四半期連結財務諸表を作成しているため、2024年7月期第3四半期の対前年同四半期増減率については記載しておりません。

2. EBITDA=営業利益+減価償却費+のれん償却額

3. 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(2) 連結財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2025年7月期第3四半期	6,213	—	5,170	83.2	—	—
2024年7月期	5,596	—	4,726	84.5	—	—

(参考) 自己資本 2025年7月期第3四半期 5,170百万円 2024年7月期 4,726百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円	銭	円	銭	円
2024年7月期	—	0.00	—	17.00	17.00
2025年7月期	—	0.00	—	—	—
2025年7月期(予想)	—	—	—	37.00	37.00

(注) 1. 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 有

2. 2025年7月期の期末配当予想につきまして、詳細は、添付資料P.4「1. 経営成績等の概況(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

3. 2025年7月期の連結業績予想(2024年8月1日~2025年7月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		EBITDA		営業利益		経常利益		親会社株主に 帰属する 当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	
通期	8,420	20.1	1,050	△8.6	980	△9.6	1,000	△13.1	650	△17.3	88.19

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における連結範囲の重要な変更 : 無
新規 一社(社名) 一、除外 一社(社名) 一

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

(注) 詳細は、添付資料P. 8「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)

2025年7月期3Q	7,370,400株	2024年7月期	7,370,400株
2025年7月期3Q	46株	2024年7月期	46株
2025年7月期3Q	7,370,354株	2024年7月期3Q	7,370,354株

② 期末自己株式数

③ 期中平均株式数(四半期累計)

※ 添付される四半期連結財務諸表に対する公認会計士又は監査法人によるレビュー : 無

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は、業況の変化により予想数値と異なる可能性がございます。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等につきましては、添付資料P. 4「1. 経営成績等の概況(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

(決算補足説明資料の入手方法)

当社は、2025年6月13日に機関投資家・アナリスト・個人投資家向けの会社説明会を開催する予定です。この説明会で使用する資料については、TDnetで開示するとともに、当社ホームページに掲載いたします。

○添付資料の目次

1. 経営成績等の概況	2
(1) 当四半期連結累計期間の経営成績の概況	2
(2) 当四半期連結累計期間の財政状態の概況	4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(会計方針の変更)	8
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	8
(セグメント情報等の注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	10
(継続企業の前提に関する注記)	10
(キャッシュ・フロー計算書に関する注記)	10

1. 経営成績等の概況

(1) 当四半期連結累計期間の経営成績の概況

当社グループは、「フィットする暮らし、つくろう」というミッションを掲げ、当社グループが提案する世界観（ライフカルチャー）に共感する人たちのWell-beingを実現することに貢献します。Well-beingに欠かせない要件の一つとして「自分の生き方を自分らしいと感じ、満足できること」＝「フィットする暮らし」だと考え、事業活動を通じて多くの人の「フィットする暮らし」づくりに貢献し、Well-beingな人が大勢いる「心地よい社会」の実現の一助になることを目指しています。

当社グループは、ライフカルチャープラットフォーム事業という、世界観でユーザーと繋がるユニークな事業を展開し、「北欧、暮らしの道具店」「foufou」という2つの報告セグメントを有しております。

① 北欧、暮らしの道具店

当社グループでは、「北欧、暮らしの道具店」の提供している世界観に共感するユーザーに対し、商品、記事、動画など様々なコンテンツを提供することによって、多くの人の「フィットする暮らし」づくりに貢献しております。なお、ビジネスラインとして「D2Cドメイン」「ブランドソリューションドメイン」を有しております。

D2Cドメインでは、暮らしにフィットする商品を販売しております。取扱商品は、アパレル、キッチン、インテリア雑貨が主力であり、自社企画のオリジナル商品が売上の約半分を占めております。また、「北欧、暮らしの道具店」のライフカルチャーを表現する記事や動画等のコンテンツを、自社サイトやSNS等の多様なチャネルから配信するコンテンツパブリッシャーとしての側面も有しております。

ブランドソリューションドメインは、「北欧、暮らしの道具店」の強いブランドとコアな顧客基盤に加え、D2Cドメインのコンテンツパブリッシングで培った高い企画制作能力を活用し、クライアント企業のブランディング上の課題に対する総合的なマーケティング・ソリューションを提供する、ブランディングエージェンシーとしての事業ドメインです。ナショナルブランドを中心に、多くのブランドを継続的に支援しております。

② foufou

当社グループでは、2016年にデザイナーのマール・コウサカ氏が設立したファッションD2Cブランド「foufou」を展開しております。「健康的な消費のために」というブランドコンセプトを掲げ、「foufou」の世界観を表現するコンテンツをSNSで発信して、ユーザーのエンゲージメントを最大化し、購入につなげ、リピーター化する特徴を持つファッションブランドであり、洋服だけでなく、時計や革製品などのファッション雑貨も取り扱っております。

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において判断したものであります。

当第3四半期連結累計期間は、食料や光熱費などの物価上昇が続いており国内消費者物価指数は前年同月を上回る状況が続いております。それを受けて実質賃金は引き続き伸び悩んでおり、家計の購買力の回復には至っていないと判断しております。家計調査によると二人以上の世帯の実質消費支出の合計は前年同月を下回って推移してきましたが2024年12月には2.7%増となるなど状況に変化も出てきております。当社グループの取扱商品に近いカテゴリである「家具・家事用品」「被服及び履物」については前年同月を上回る月もあるものの、対前年同月でマイナスとなる月の方が多く厳しい状況が続いております。このように国内消費環境は予断を許さない状況にあり、海外の様々な情勢から各国の経済成長や為替相場の見通しも難しく、経済の先行きについては不透明な状況が続いていると捉えております。

このような経済環境のなか「北欧、暮らしの道具店」は、昨年に引き続き新商品を積極的に展開するとともに、新しいカテゴリの開発にも継続的に取り組んでおります。また、新規顧客の獲得などを目的にしたマーケティング投資の拡大に取り組んでおりますが、投資対効果に関する規律を守りながら広告運用が好調に推移しており、結果としてエンゲージメントアカウント数や新規会員数を大きく伸ばすことができました。

以上の理由から、当第3四半期連結累計期間における売上高は6,485,134千円（前年同期比20.1%増）、売上総利益は2,903,797千円（前年同期比21.8%増）、EBITDA（※）は925,453千円（前年同期比11.3%減）、営業利益は871,145千円（前年同期比12.7%減）、経常利益は886,908千円（前年同期比16.4%減）、親会社株主に帰属する四半期純利益は569,228千円（前年同期比17.8%減）となりました。

（※）EBITDA＝営業利益＋減価償却費＋のれん償却額

セグメント別の経営成績は、以下のとおりであります。

(北欧、暮らしの道具店)

「北欧、暮らしの道具店」は、2025年7月期より、売上成長率の再加速を目指す3カ年の中期成長戦略を掲げ、マーケティング投資の拡大を推進しております。当第3四半期連結累計期間は、アプリダウンロードを訴求するオンライン広告等のマーケティング投資を積極的に行い、アプリダウンロード数が大きく伸びております。新規アプリダウンロードユーザーの購入転換が進んでいることなどによって新規会員数、購入者数は前年から大きく増加しております。その結果、売上高は第2四半期(2024年11月～2025年1月)、第3四半期(2025年2月～2025年4月)連続で四半期として過去最高を記録しました。また、マーケティング戦略の基盤づくりのための検証も着実に進めております。現時点では、アプリダウンロードを訴求するオンライン広告のエンゲージメントアカウント獲得効率が高く、売上貢献とそれによる投資回収を確認できております。そのため、当該オンライン広告に投資を集中する方針とし、運用を行うことで想定を超える売上成長の再加速を実現できております。カテゴリの花束戦略においては、ノリタケ(株)が展開する120年以上の歴史を誇る老舗テーブルウェアブランドとコラボした限定復刻商品や(株)アーバンリサーチが展開するコンセプトショップ「かぐれ」とコラボしたアパレル商品など、他ブランドとのさまざまなカテゴリにおけるコラボレーションが実現し、新たな顧客を呼び込む重要な成長戦略となっています。2024年10月に発売した初のオリジナル基礎スキンケアも好調で、当第3四半期連結累計期間におけるコスメカテゴリの売上高構成比は5%程度の規模に成長しました。

これらの取り組みやエンゲージメントチャンネルへの継続投資によって、エンゲージメントアカウント数は順調に増加し、公式スマートフォンアプリ(iOS/Android)は、当第3四半期連結会計期間末日現在、累計約468万ダウンロードとなりました。当第3四半期連結累計期間におけるアプリ経由の注文数は既に「北欧、暮らしの道具店」全体の約72%を占めております。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間における「北欧、暮らしの道具店」セグメントの売上高は6,316,227千円(前年同期比23.0%増)、EBITDAは934,726千円(前年同期比6.9%減)となりました。

(foufou)

「foufou」は、昨年のPMIで健全な運営体制の構築が完了し、2年目となる今期は中長期的な成長に向けた取り組みを具体的に進めております。価格戦略の見直しと商品ラインナップの戦略的な計画を同時に進めながら、新規顧客や販売チャンネルの開拓を見据えたポップアップショップを複数回開催しており、2025年2月に行った伊勢丹新宿店でのポップアップは大盛況となりました。「foufou」のInstagramフォロワー数も今期に入り大きく増加しており、新規顧客の獲得につながっていると考えております。また、「北欧、暮らしの道具店」と「foufou」による初のグループ内でのコラボ商品となった「hopeと名付けた、ジレにもなるワンピース / with foufou」は半日で完売いたしました。これからも商品販売におけるシナジーも模索してまいります。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間における「foufou」セグメントの売上高は175,334千円(前年同期比33.7%減)、EBITDAは△7,689千円(前年同期は39,754千円のプラス)となりました。

(2) 当四半期連結累計期間の財政状態の概況

(資産)

当第3四半期連結会計期間末における資産総額は、前連結会計年度末に比べ616,823千円増加し、6,213,613千円となりました。これは主に、現金及び預金が141,166千円、売掛金が336,540千円、商品が180,477千円増加したことによるものであります。

(負債)

当第3四半期連結会計期間末における負債総額は、前連結会計年度末に比べ172,890千円増加し、1,042,836千円となりました。これは主に、未払法人税等が103,127千円減少したものの、買掛金が300,594千円増加したことによるものであります。

(純資産)

当第3四半期連結会計期間末における純資産は、前連結会計年度末に比べ443,932千円増加し、5,170,776千円となりました。これは主に、剰余金の配当125,296千円を実施したものの、親会社株主に帰属する四半期純利益569,228千円を計上したことにより利益剰余金が443,932千円増加したことによるものであります。

自己資本比率は83.2%と財務的健全性を維持しております。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

国内消費動向など依然として先行き不透明な状況にはありますが、当第3四半期連結累計期間の売上高は2024年12月に公表した修正業績予想の想定を上回って進捗しております。マーケティング投資拡大の効果により、エンゲージメントアカウント数、新規会員数、購入者数等のKPIが好調に推移し、足元の「北欧、暮らしの道具店」の売上高および利益は想定を超えて進捗していることから、各セグメントごとの見通しを更新し、通期の連結業績予想の修正を行いました。また、修正後の連結業績予想などに基づき配当予想についても更新しております。

詳細につきましては、本日公表いたしました「連結業績予想の修正及び配当予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

当社ではTSR(株主総利回り)を重視した株主還元を行う方針とし、成長投資と株主還元のバランスを考慮したダイナミックな株主還元を行うことでTSRの安定を図ることを目指します。B/Sマネジメントからの最適配当政策が適切であると認識しており、安定した経営に必要なキャッシュポジションの観点から還元可否の判断を行います。また、投資局面においては投資を優先する必要があるため、利益ではなく配当原資はFCF(フリーキャッシュフロー)を基準とし、当面はその50%を上限とします。これにより株主還元、成長投資、内部留保による財務基盤の強化のバランスの取れた配分が可能になると考えております。

具体的には、期末ネットキャッシュ(現金及び預金-借入金)とキャッシュポジションの目標水準(広告宣伝費を除く当期販売費及び一般管理費の2年分)を比較し、期末ネットキャッシュが目標水準を上回っている場合には、還元可能と判断します。その上で当期FCFの50%を原資に還元を行いますが、期末ネットキャッシュが目標を下回らない範囲で行うため、FCFの50%が上限となります。また、FCFを原資とするため、還元可能と判断されても当期FCFがマイナスの場合は、株主還元は行いません。

当社の株主還元方針は現在の経営環境において合理性のあるものと判断しておりますが、状況変化や期待する効果に対する今後の評価などにより適宜見直しを行い変更する可能性があります。変更する場合には、その内容等を適時に説明いたします。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2024年7月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2025年4月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	4,195,709	4,336,876
売掛金	209,096	545,637
商品	423,270	603,747
仕掛品	1,209	4,648
原材料	1,555	5,548
その他	59,592	60,888
流動資産合計	4,890,432	5,557,346
固定資産		
有形固定資産	251,227	225,545
無形固定資産		
のれん	193,891	177,733
その他	64,027	52,489
無形固定資産合計	257,918	230,223
投資その他の資産	197,210	200,497
固定資産合計	706,356	656,266
資産合計	5,596,789	6,213,613
負債の部		
流動負債		
買掛金	154,175	454,770
1年内返済予定の長期借入金	49,434	39,996
未払法人税等	227,571	124,443
賞与引当金	—	30,509
その他	335,421	319,770
流動負債合計	766,602	969,490
固定負債		
長期借入金	103,343	73,346
固定負債合計	103,343	73,346
負債合計	869,945	1,042,836
純資産の部		
株主資本		
資本金	100,000	100,000
資本剰余金	1,175,730	1,175,730
利益剰余金	3,451,170	3,895,103
自己株式	△56	△56
株主資本合計	4,726,844	5,170,776
純資産合計	4,726,844	5,170,776
負債純資産合計	5,596,789	6,213,613

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自2023年8月1日 至2024年4月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自2024年8月1日 至2025年4月30日)
売上高	5,398,402	6,485,134
売上原価	3,015,236	3,581,336
売上総利益	2,383,165	2,903,797
販売費及び一般管理費	1,385,153	2,032,652
営業利益	998,011	871,145
営業外収益		
受取利息	36	2,618
配信料収入	9,547	12,207
保険解約返戻金	52,489	—
その他	2,251	1,855
営業外収益合計	64,324	16,682
営業外費用		
支払利息	782	919
その他	68	—
営業外費用合計	850	919
経常利益	1,061,485	886,908
特別損失		
減損損失	—	5,742
特別損失合計	—	5,742
税金等調整前四半期純利益	1,061,485	881,165
法人税等	369,306	311,937
四半期純利益	692,178	569,228
親会社株主に帰属する四半期純利益	692,178	569,228

四半期連結包括利益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2023年8月1日 至 2024年4月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2024年8月1日 至 2025年4月30日)
四半期純利益	692,178	569,228
四半期包括利益	692,178	569,228
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	692,178	569,228

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(会計方針の変更)

(「法人税、住民税及び事業税等に関する会計基準」等の適用)

「法人税、住民税及び事業税等に関する会計基準」(企業会計基準第27号 2022年10月28日。以下「2022年改正会計基準」という。)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用しております。

法人税等の計上区分(その他の包括利益に対する課税)に関する改正については、2022年改正会計基準第20-3項ただし書きに定める経過的な取扱い及び「税効果会計に係る会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第28号 2022年10月28日。以下「2022年改正適用指針」という。)第65-2項(2)ただし書きに定める経過的な取扱いに従っております。なお、当該会計方針の変更による四半期連結財務諸表への影響はありません。

また、連結会社間における子会社株式等の売却に伴い生じた売却損益を税務上繰り延べる場合の連結財務諸表における取扱いの見直しに関連する改正については、2022年改正適用指針を第1四半期連結会計期間の期首から適用しております。当該会計方針の変更は、遡及適用され、前年四半期及び前連結会計年度については遡及適用後の四半期連結財務諸表及び連結財務諸表となっております。なお、当該会計方針の変更による前年四半期の四半期連結財務諸表及び前連結会計年度の連結財務諸表への影響はありません。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

(税金費用の計算)

税金費用については、当第3四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(セグメント情報等の注記)

【セグメント情報】

前第3四半期連結累計期間(自 2023年8月1日 至 2024年4月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:千円)

	報告セグメント			四半期連結 損益計算書計上額 (注)2
	北欧、暮らしの 道具店	foufou	合計	
売上高				
顧客との契約から生じる収益	5,134,137	264,264	5,398,402	5,398,402
外部顧客への売上高	5,134,137	264,264	5,398,402	5,398,402
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—
計	5,134,137	264,264	5,398,402	5,398,402
セグメント利益	975,446	22,565	998,011	998,011
減価償却費	28,668	1,030	29,699	29,699
のれん償却額	—	16,157	16,157	16,157
EBITDA (注)1	1,004,114	39,754	1,043,869	—

(注) 1. EBITDAは、セグメント利益に減価償却費及びのれん償却額を加えた数値であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と一致しております。

当第3四半期連結累計期間(自 2024年8月1日 至 2025年4月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
	北欧、暮らしの 道具店	foufou	合計		
売上高					
顧客との契約から生じる収益	6,316,227	168,907	6,485,134	—	6,485,134
外部顧客への売上高	6,316,227	168,907	6,485,134	—	6,485,134
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	6,427	6,427	△6,427	—
計	6,316,227	175,334	6,491,562	△6,427	6,485,134
セグメント利益又は損失(△)	897,233	△24,504	872,729	△1,583	871,145
減価償却費	37,492	657	38,150	—	38,150
のれん償却額	—	16,157	16,157	—	16,157
EBITDA (注)1	934,726	△7,689	927,036	—	—

(注) 1. EBITDAは、セグメント利益又は損失(△)に減価償却費及びのれん償却額を加えた数値であります。

2. セグメント利益又は損失(△)の調整額は、セグメント間取引に係る未実現利益の消去であります。

3. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と一致しております。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(キャッシュ・フロー計算書に関する注記)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費(のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。)及びのれんの償却額は、次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自 2023年8月1日 至 2024年4月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2024年8月1日 至 2025年4月30日)
減価償却費	29,699千円	38,150千円
のれん償却額	16,157千円	16,157千円